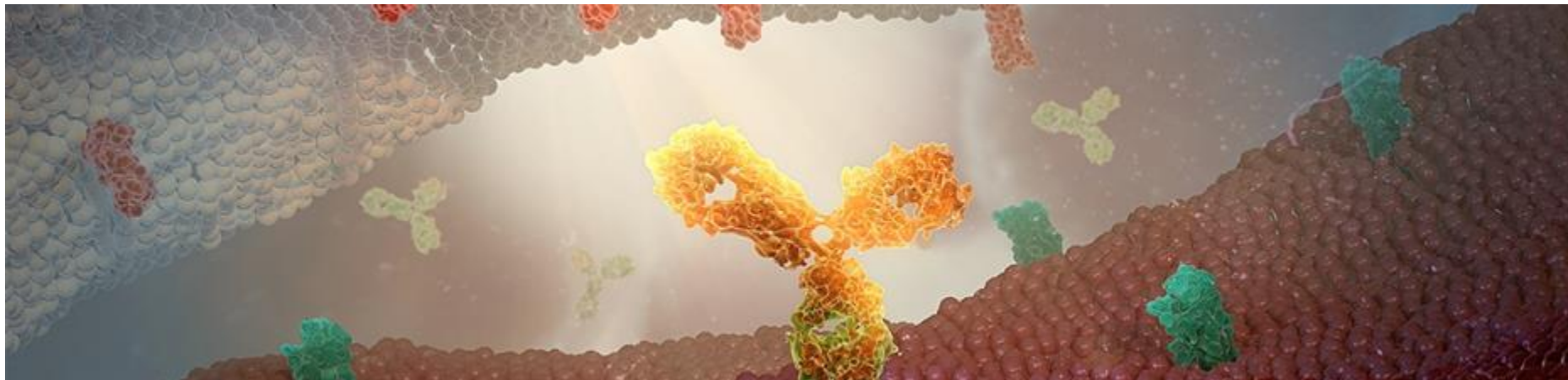


HBOC調査レポート

アストラゼネカ株式会社

2017年10月



調査概要

- 調査目的: 乳がん・卵巣がん患者さんにおけるHBOC認知理解向上のため、HBOC関連情報へのニーズと情報の入手状況を明らかにする
- 調査時期: 2017年9月
- 調査手法: オンライン調査 (マクロミル・ネットモニターを利用)
- 対象者: 乳がんまたは卵巣がんを治療中の患者、もしくは乳がんまたは卵巣がんの治療経験のある方 計154名
- 監修: がん研究会 有明病院 遺伝子診療部長
新井 正美 先生



調査結果まとめ

乳がん・卵巣がん患者さんにおける 遺伝性乳がん・卵巣がんの情報提供のニーズと現状に大きなギャップ ～医師からの情報提供は2割に留まる～

- 乳がん・卵巣がん患者さんの62.3%が、医師から遺伝性かどうかについての情報を提供してほしいと思っていますが、実際に情報提供された患者さんは22.1%に留まりました。
- 乳がん・卵巣がん患者さんのHBOC認知経路で最も多いのは「テレビ・ラジオ」(64.2%)、次いで「インターネット」(43.3%)でした。「医師」は26.9%で、「新聞、雑誌」と同じ割合でした。
- HBOCの一次拾い上げに役立つ情報の一つは「患者さんの第一から第三度近親者におけるがん罹患歴(家族歴)」です。乳がん・卵巣がん患者さんにおける家族歴の把握度は第一度と第二度近親者において9割を超え(第一度近親者:100%、第二度近親者:96.4%、第三度近親者:71.6%)、患者さんは医師に問われれば、HBOCスクリーニングに役立つ情報を十分に有していることが分かりました。
- HBOCの説明を受けると、患者さんの63%がHBOCを自分と関係している疾患だと捉え、58.4%はさらに詳しく知りたいと回答したことから、患者さんへのHBOCの情報提供の機会を準備することが重要であることが明らかになりました。



監修:新井 正美医師のコメント



がん研究会 有明病院
遺伝子診療部長

「医師からのHBOCに関する情報提供において、患者さんのニーズと現場の対応に大きなギャップがあることが本調査で浮き彫りとなった。

患者さんは現在、テレビやインターネットからHBOCの情報を得ることが多いが、医師を含めた医療従事者からの提供を求めている。今後、診療の担当医もその役割をより強く認識することが必要である。」

【監修 新井 正美先生プロフィール】

1986年鹿児島大学医学部を卒業、1996年に東京大学大学院医学研究科修了。東京大学医学部第3外科、癌研究会附属病院消化器外科を経て、2000年から同病院家族性腫瘍センターに所属、2011年より現職。

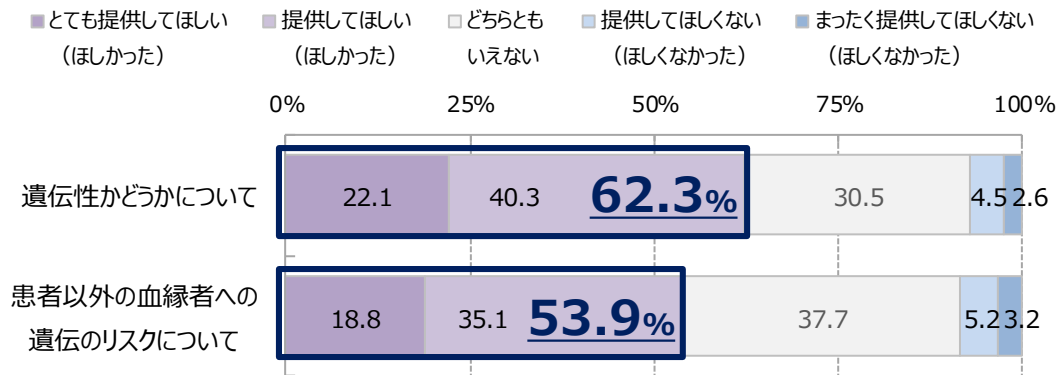


調査結果詳細

遺伝性の可能性について、患者の6割以上が医師からの情報提供を希望

医師からの情報提供希望

Q34. あなたは、乳がん・卵巣がんの治療中に、疾患や治療に関して、医師からのどのような情報を提供してほしい（ほしかった）と思いますか。以下のそれぞれについて、あなたのお気持ちに最もあてはまるものをお選びください。(N=154)



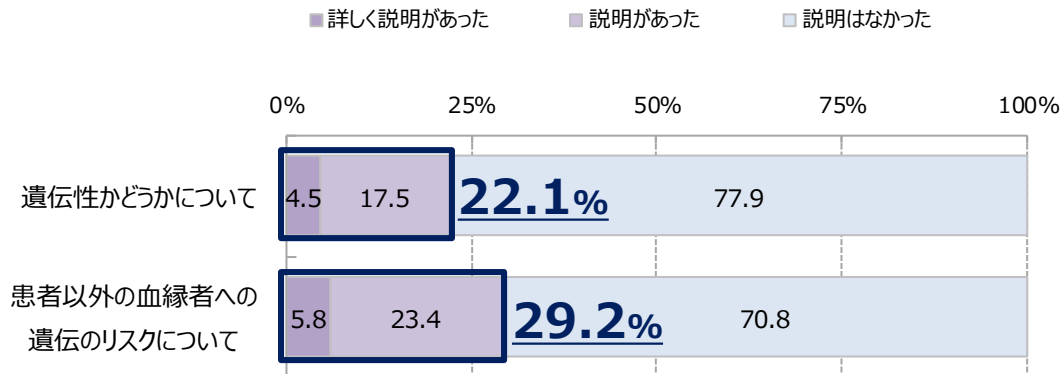
- 「遺伝性かどうかについて」は62.3%、「自分以外の血縁者への遺伝リスクについて」は53.9%と、過半数が医師から情報提供をしてほしいと思っている。また、どちらも「提供してほしくない」は1割にも満たない。



遺伝性の可能性について、医師から説明を受けた人は2割に留まる

医師からの説明有無

Q33. 乳がん・卵巣がんの疾患や治療に関して、医師から以下のような説明はありましたか。以下のそれぞれについて、あてはまるものをお選びください。(N=154)



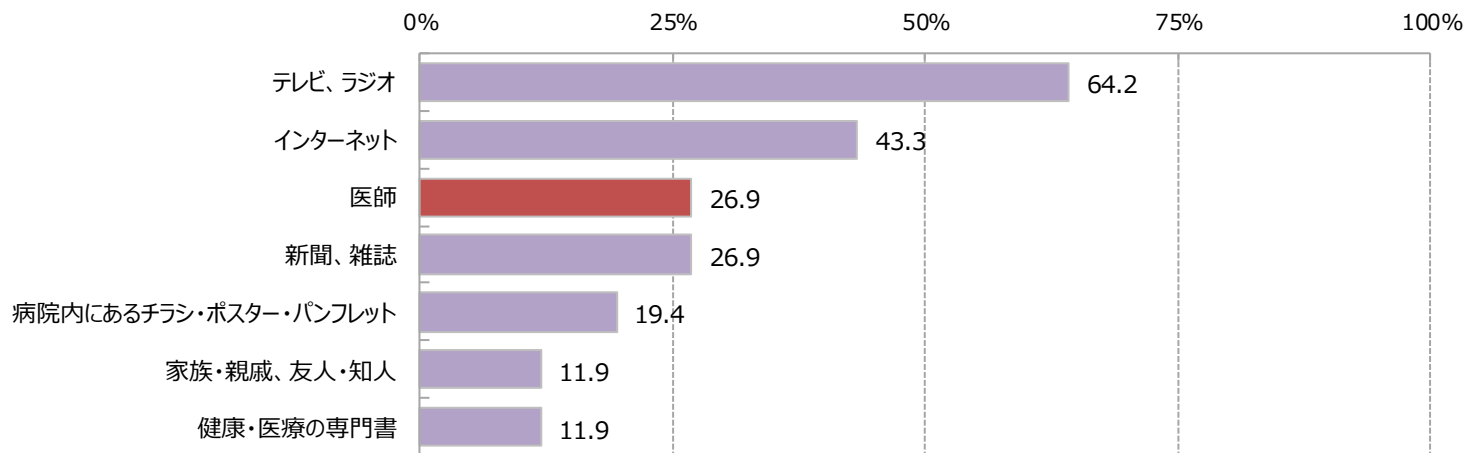
- 医師から、**遺伝性かどうかについて説明があった割合は22.1%**。自分以外の血縁者への**遺伝リスクについて説明があった割合は29.2%**。自身のリスクや血縁者への遺伝リスクについて説明があった人は2割台に留まっている。



HBOCの認知経路としても、「医師」は3割弱に留まる

遺伝性乳がん・卵巣がん症候群（HBOC）の認知経路

Q9. あなたは「遺伝性乳がん・卵巣がん症候群(HBOC)」を何を通じて知りましたか。あてはまるものをすべてお選びください。(N=67)



- HBOCの認知経路で最も多いのは「テレビ、ラジオ」(64.2%)、次いで「インターネット」(43.3%)。
- 「医師」は**26.9%**で、「新聞、雑誌」と並ぶ。

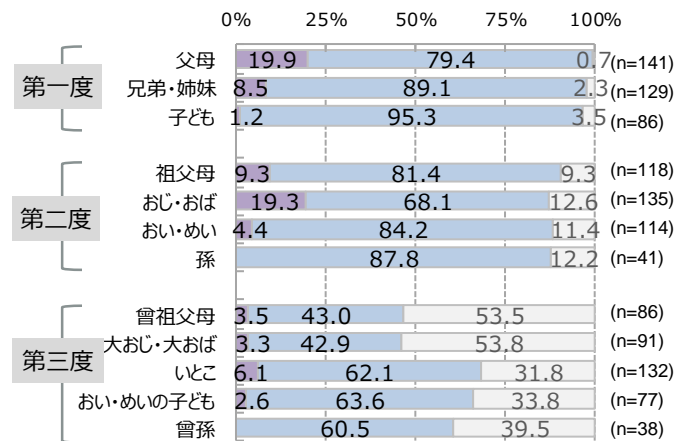
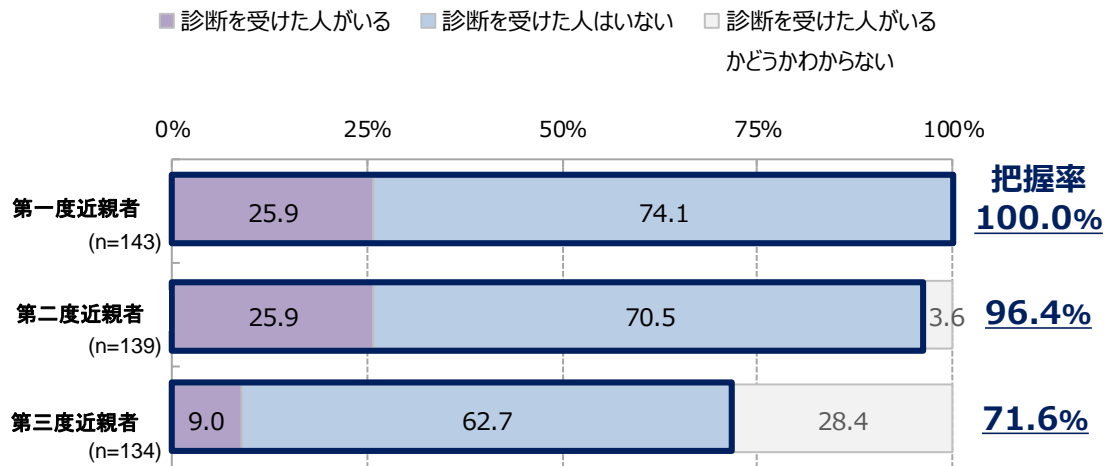


HBOC関連のがん家族歴の把握度は第一～二度近親者では9割を超える

家族歴の把握

SQ4. あなたの血縁者の中に、「乳がん・卵巣がん・前立腺がん」の診断を受けたことがある人はいらっしゃいますか。あてはまるものをすべてお選びください。

※配偶者や配偶者側の親族は除き、あなたご自身と血縁関係のある親族についてお答えください。



- ・ 家族歴の認知は、第一度近親者:100.0%、第二度近親者:96.4%、第三度近親者:71.6%。
- ・ 第一～二度近親者のがん診断歴の把握度は9割超、第三度近親者でも7割超と高い。

*血縁者…第一度近親者(父母、きょうだい、子供)、第二度近親者(祖父母、おじ、おば、めい、孫)、第三度近親者(曾祖父母、大おじ、大おば、いとこ、おい・めいの子供、曾孫) (すべて配偶者側の親族は除く)



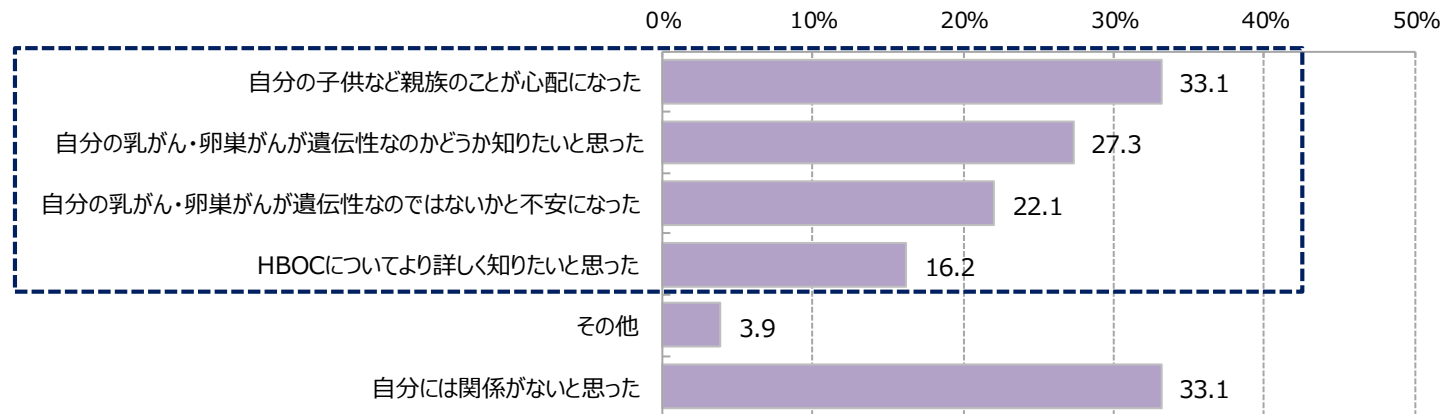
「遺伝性乳がん・卵巣がん症候群(HBOC)」を知ること、自身だけでなく、家族にも関わるリスクの重大さを認知

HBOCの説明を読んで感じたこと

Q20. 乳がん・卵巣がんには遺伝要因のものがあります。上記の遺伝性乳がん卵巣がん症候群（HBOC）に関する説明文を読んで、どのように感じましたか。
あてはまるものをすべてお選びください。(N=154)

自分にHBOCが
関係していると
思った回答者

63.0%



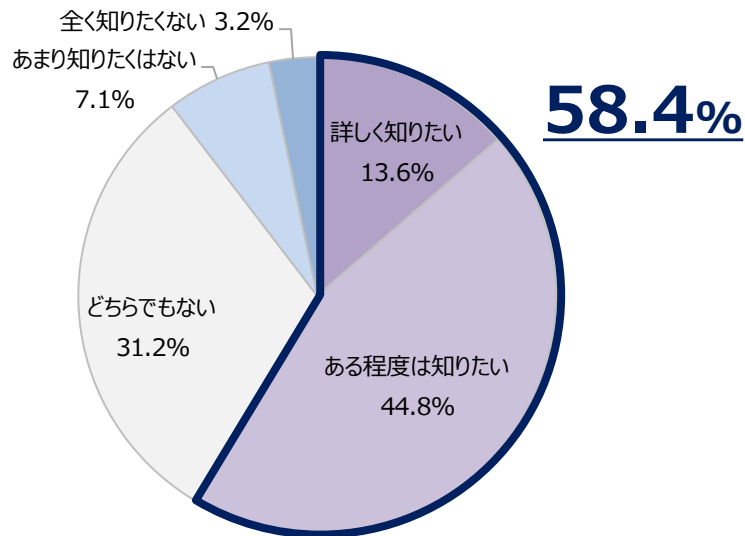
- ・ 「遺伝性乳がん・卵巣がん症候群(HBOC)」に関する情報を得た後、**自身のがんがHBOCと関連している可能性を感じた回答者は63.0%**。
- ・ その中でも一番多かった回答は「**自分の子供など親族のことが心配になった**」(33.1%)。



HBOCの概要を知った後には、 約6割の患者さんがさらに詳しい情報を知りたいと回答

HBOCへの関心度

Q36. あなたは、今後、遺伝性乳がん卵巣がん症候群(HBOC)に関して、詳しく知りたいと思いませんか。(N=154)



- 今後も「遺伝性乳がん・卵巣がん症候群(HBOC)」について「知りたい」と回答した乳がん、卵巣がん患者は58.4%。

